



理研ビタミン株式会社

証券コード：4526



個人投資家様向け会社説明会

2022年8月31日



代表取締役社長
取締役

山木 一彦
富取 隆浩

1. 会社紹介



わかめちゃん

2. 理研ビタミンの歴史
3. 事業紹介
4. 未来へのビジョン
5. 中期経営計画（2022-2024年度）
6. 財務状況・株主還元

商号	理研ビタミン株式会社
設立	1949年（昭和24年）8月27日 創立73周年！
資本金	25億3700万円
上場市場	東京証券取引所 プライム市場（証券コード：4526）
代表者	代表取締役社長 山木 一彦
従業員数	958名（連結1,825名）（2022年3月31日現在）
事業内容	家庭用食品、業務用食品、加工食品用原料、食品用改良剤、 化成品用改良剤、ビタミン類などの製造・販売



よく知られている製品例



IR担当者のイチオシ!



ノンオイルドレッシングとわかめの会社…？



- “ノンオイルドレッシング”というジャンルを定着させたパイオニア
- ノンオイルドレッシング **シェアNo.1!**
(※発売開始から30年以上トップを維持)
- 日本で初めてわかめの全国的な流通を開始
- 家庭用国産乾燥カットわかめ **シェアNo.1!**
(※発売開始から40年以上トップを維持)
- インスタントわかめスープ **シェアNo.1!**
(※発売開始から40年以上トップを維持)

…だけではない! のです

1. 会社紹介

2. 理研ビタミンの歴史



わかめちゃん

3. 事業紹介

4. 未来へのビジョン

5. 中期経営計画（2022-2024年度）

6. 財務状況・株主還元

理化学研究所のビタミンA事業が**原点**



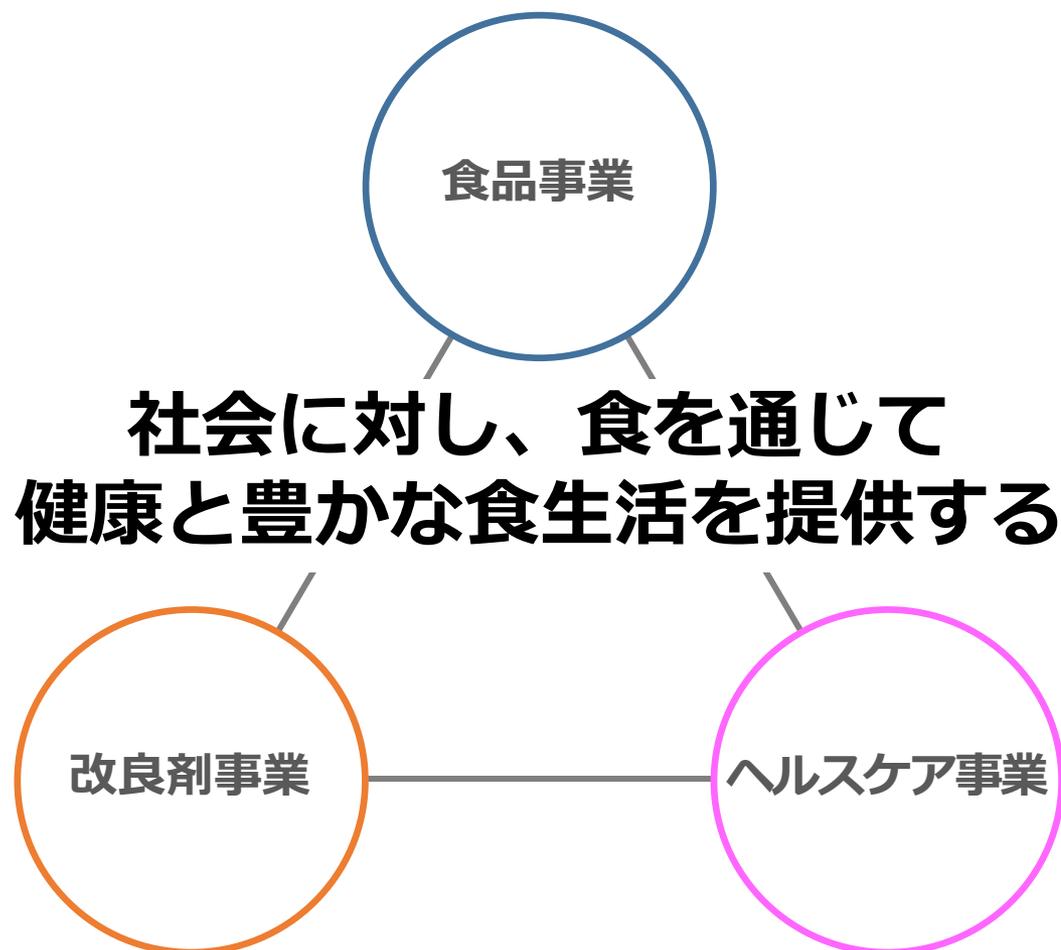
▲ビタミンA製品のポスター



▲理化学研究所 設立当時の写真（文京区駒込）



▲ビタミンA製品群



理化学研究所から
受け継いだ理念

天然物の有効利用を図る技術と商品で
人々の健康と栄養に寄与し、社会に貢献する

ビタミンA事業からの転換・事業多角化

- 1949年 **創立** (当時の社名は**理研ビタミン油**株式会社)
- 1950年代
1959年 食品用乳化剤 (モノグリセライド) の生産を開始
インスタントラーメン用スープの生産を開始
- 1960年代
1961年 医薬用マイクロカプセルの生産を開始
1965年 **生わかめ「わかめちゃん®」** を発売 (わかめ事業に進出)
1969年 化成品用改良剤に進出
- 1970年代
1976年 ほたてエキスを開発
乾燥カットわかめ「ふえるわかめちゃん®」 を発売
- 1980年代
1981年 **「わかめスープ」** を発売
1989年 **「ノンオイルスーパードレッシング 青じそ」** を発売



1990年代

1991年 海外に進出
(改良剤工場 リケビタ・マレーシアを設立)

1999年 草加工場内に食品用改良剤の用途開発施設
アプリケーションセンターを開設



2000年代

2000年 和風だしの素「素材力だし」 を発売

2004年 米国にポークエキス工場
ガイモン・エクストラクツを設立



2010年代

2017年 海藻の“種苗”研究施設
理研食品・ゆりあげファクトリーを開設

2019年 食品用改良剤の研究開発拠点
アプリケーション&イノベーションセンターを開設



2020年代

2021年 海藻の陸上養殖施設
理研食品・陸前高田ベースを開設



ビタミンA事業で培った技術を応用

魚の肝臓から天然ビタミンAを抽出



有効成分の 抽出・精製・濃縮 技術

食品事業

ドレッシング
海藻
エキス・調味料



改良剤事業

食品用改良剤
化粧品用改良剤



ヘルスケア事業

医薬品用原料
機能性食品用原料



1. 会社紹介
2. 理研ビタミンの歴史
- 3. 事業紹介** 
わかめちゃん
4. 未来へのビジョン
5. 中期経営計画（2022-2024年度）
6. 財務状況・株主還元

一人暮らしの会社員Aさんの一日



<午前>

06:30

起床、身支度

07:00

【朝食】

シリアル、ミルク、**サラダ**



08:30

出社、自販機でコーヒーを購入

09:00

仕事開始

12:00

【昼食】

会社近くの中華料理屋へ

<午後>

13:00

仕事再開

17:30

退社

18:30

スーパーで買い物
⇒野菜、お惣菜などを購入

19:30

【夕食】

白米、**味噌汁**、惣菜、**サラダ**



23:00

就寝

さまざまな加工食品、トイレタリー製品に

<午前>

06:30

起床、**身支度**



改良剤

ハンドソープの泡立ちをよく
洗顔料に植物由来スクラブ



07:00

【朝食】

シリアル、ミルク、**サラダ**



ヘルスケア

ビタミンで
栄養強化



08:30

出社、自販機で**コーヒー**を購入



改良剤

コーヒーとミルクの
分離を防止

09:00

仕事開始



改良剤

生地をふんわり



12:00

【昼食】

会社近くの**中華料理屋**へ



業務用商品

ラーメンスープの素など
各種調味料



自動車部品、ラップなどの樹脂製品にも

<午後>

13:00

仕事再開



改良剤

内装等に使う樹脂を加工しやすく



17:30

退社



営業車で取引先へ



改良剤

ラップや容器の曇りを防止
(食材、お惣菜が綺麗に見える)

18:30

スーパーで買い物
⇒野菜、お惣菜などを購入



19:30

【夕食】
白米、味噌汁、惣菜、サラダ



改良剤

衣をサクッと
中身をジューシーに

23:00

就寝



ヘルスケア

良質な眠りと目のピント調節を
Wでサポートする「クロセチン」 (機能性表示食品)

BtoB (飲食店、給食、食品メーカー向け等) にも幅広く展開

ドレッシング

海藻

エキス・調味料

B to C



B to B

- 飲食店向け
…家庭用でない味、大容量～小袋
- 学校給食向け
…アレルギーや減塩にも配慮



- 飲食店向け
…わかめの新しい食べ方提案、わかめ以外の海藻も



- 飲食店向け
…和・洋・中、液体・粉末など
- 食品メーカー向け



天然由来の改良剤で食品・化粧品メーカーの課題を解決

食品用改良剤



食感改良、老化防止

パンをふんわりとした食感に
時間が経っても硬くなりにくく



ほぐれ性改善、酸化防止

麺をほぐれやすく
酸化を抑えて保存性向上



消泡、凝固調整

大豆を煮る際の泡を抑制
にがりで固まるスピードを調整



着色、見た目のおいしさ向上

天然由来の色素を扱いやすく加工
様々な食品に彩りを付与

化粧品用改良剤



防曇（ぼうどん）剤

食品用のラップや農業用ハウスの
フィルムが水滴で曇るのを防ぐ



可塑（かそ）剤

硬い樹脂を柔らかくし、
成型加工しやすく



帯電防止剤

静電気の発生を抑制し、埃の付着や
電子機器への影響を防ぐ



衛生用品向け

- ・消毒用アルコールの抗菌性補助
- ・ハンドソープの起泡
- ・洗顔料用スクラブ など

“天然物の有効利用”で健康と栄養に寄与

祖業のビタミンA事業



ビタミン

- ・天然ビタミンE
- ・各種ビタミンを配合した
ビタミンミックス

※食品の栄養強化や酸化防止剤として活用



機能性食品用原料

天然物から機能性成分を抽出

例)

- ・クちなシの実 → クロセチン (色素)
- ・わかめ → わかめペプチド
- ・メカブ → メカブフコイダン



通販サイト「理研ダイレクト」で販売

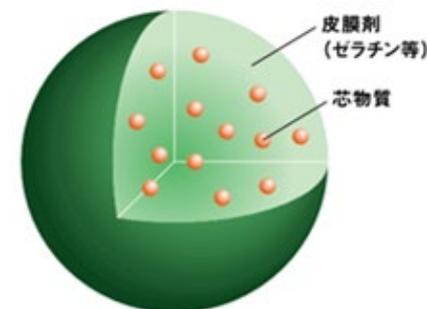
> URL : <https://www.riken-direct.jp/shop/>



マイクロカプセル

ビタミンAの加工技術

各種医薬成分の安定性や吸収性
などの改善に応用



世界各国で食品用・化成品用改良剤を中心に販売



- マレーシア・天津に改良剤、アメリカにポークエキスの生産拠点
- 今後はアジア・北米地域を重点エリアとして販売を強化

実はBtoB事業の比率が大、関係先業界は多岐にわたる

海外事業
24.7%

海外改良剤



青島福生食品

※2021年度第1四半期に連結から除外

国内化成品その他事業
8.2%



青島福生食品
0.5%

海外改良剤
24.2%

2021年度
連結売上高実績

792億円

国内食品事業
67.1%

家庭用食品
16.0%

家庭用食品



業務用食品

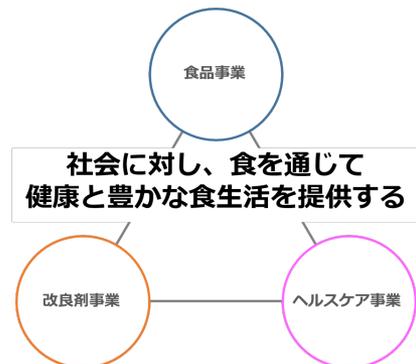


加工食品用原料等
28.5%

加工食品用原料等



見えないところで日々の暮らしに貢献



1. 会社紹介
2. 理研ビタミンの歴史
3. 事業紹介
- 4. 未来へのビジョン** 
わかめちゃん
5. 中期経営計画（2022-2024年度）
6. 財務状況・株主還元

2022年5月 中長期ビジョンを公表

<中長期ビジョン>

**持続可能な社会を
スペシャリティな製品とサービスで支え
成長する会社になる**

当社は、独自の強みを活かしたスペシャリティな製品とサービスをサステナビリティの視点で見つめ直し、当社が関わる幅広い分野での課題解決を通じ、持続可能な社会を支え、成長する会社を目指します。

CO₂吸収源の新しい選択肢として**海藻に注目**

■ 海藻が吸収するCO₂（ブルーカーボン※）に関する共同研究の推進



- 天然藻場と磯焼け海域、海藻養殖場の純生態系生産量を計算
- 海藻類によるCO₂固定能力の試算に成功

※ブルーカーボン
海洋生物の作用によって、大気中から海中へ吸収されたCO₂由来の炭素のこと。

■ 海藻養殖による温室効果ガス削減効果の研究

海藻養殖のカーボンオフセット効果の定量化

- ➡ **海藻産業の付加価値向上**
- ➡ **将来的なカーボンクレジット時代に向けた新産業創出**

・・・温暖化対策の可能性模索

独自技術で“食”のサステナビリティ課題を解決

■ フードロス低減

- 時間がたっても**風味・食感を維持**する
(パンや和菓子の柔らかさなど)
- 加工食品の**日持ちをのばす**



■ 食品生産の安定化

- **気候変動**に伴う原材料の品質のブレによる影響を抑える
- **原料調達不安**に対応



見切り販売

廃棄ロス

物流コスト

気候変動

調達不安

原料コスト

・・・サステナビリティ課題を機会ととらえ、改良剤技術を提案

植物由来の強みを活かして新領域に挑戦

■ バイオマス製品の拡大

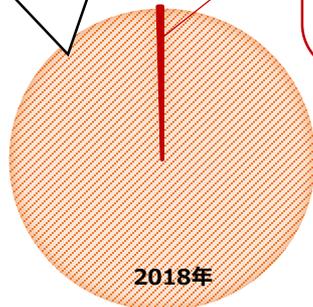
● 生分解性プラスチック用改良剤

各国で法規制化が進行



可塑（かそ）剤や帯電防止剤など
バイオマス製品の提案機会が増加

プラスチックの
日本国内投入量
992万トン



そのうち
バイオプラスチック
4.5万トン
(0.5%)

出典：環境省
バイオプラスチック導入ロードマップ

■ 植物由来成分を主体とした 農薬の開発

● スギ花粉飛散抑制剤

将来の**スギ花粉の飛散量抑制**を期待
(22年度に散布試験を実施予定)



スギの雄花

・・・環境に配慮したバイオマス製品が得意分野

1. 会社紹介
2. 理研ビタミンの歴史
3. 事業紹介
4. 未来へのビジョン

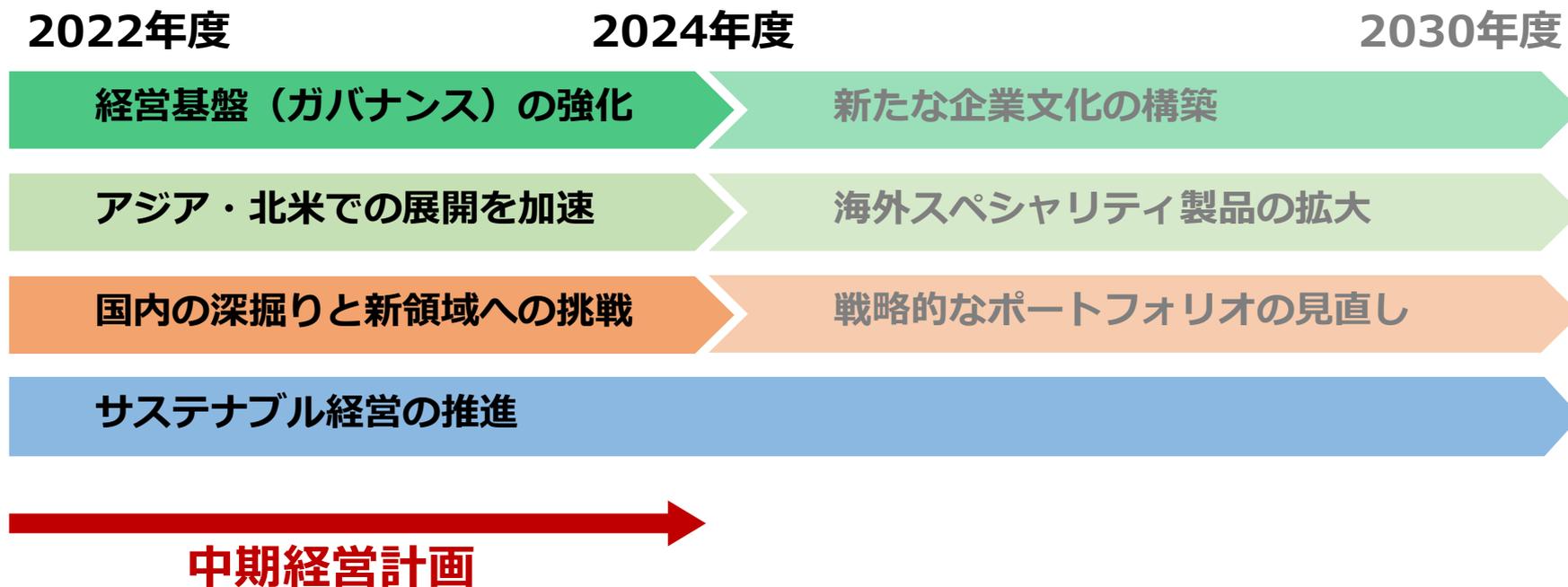


わかめちゃん

5. 中期経営計画（2022-2024年度）

6. 財務状況・株主還元

【基本方針】



中長期ビジョンの最初の3年間

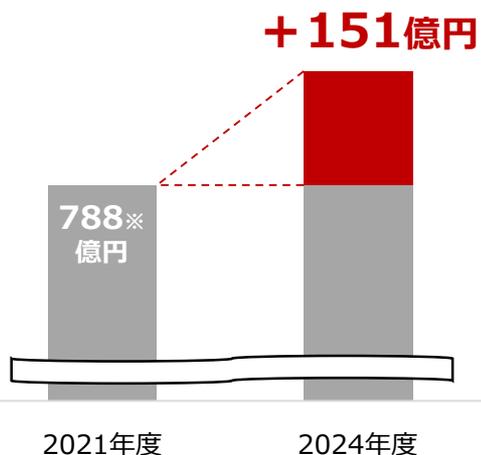
➔ 将来の成長に向けた基盤強化と投資を行う期間

安定的な収益基盤を構築

売上高

940億円

- 海外事業を成長ドライバーとし売上規模を拡大
- 3年間で売上高1,000億円を見据える水準に成長

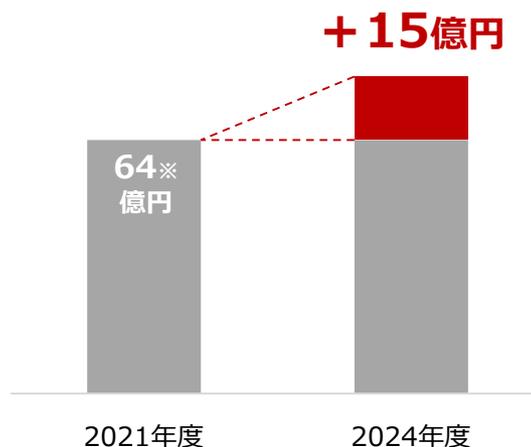


※売却した海外子会社の業績を除く

営業利益

80億円(8.5%)

- 原材料価格等のコストは高止まりが続く見通し
- 価格改定と不採算品目の改善でコスト上昇をカバー



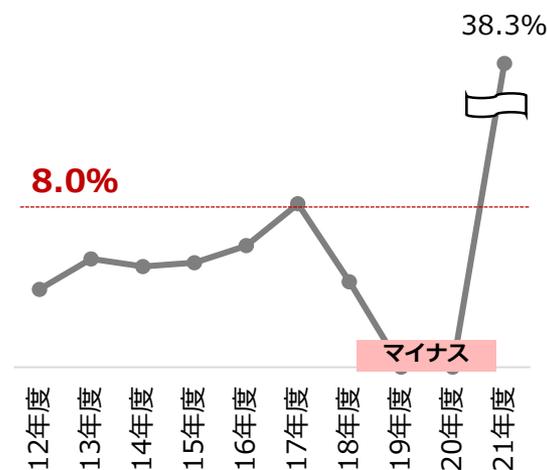
※売却した海外子会社の業績を除く

ROE

8.0%以上

- 連結除外事業※の影響で直近3年度はROEが大きく変動
- 政策保有株式の売却も進め安定的に8.0%以上を確保へ

※2021年度に売却した海外子会社



成長を支える投資と、安定した財務基盤を両立

営業
キャッシュフロー
250億円

政策保有株式の縮減
50億円

設備投資
100億円

- 成長投資
 - 天津改良剤工場増築
 - 東京工場ビタミンミックス棟 など
- 維持・更新投資

配当
50億円

- 配当性向30%以上を目安とした安定した配当を継続

借入金返済
100億円

- 大きな環境変化に耐えうる財務基盤の安定化

戦略投資
50億円

- 人財投資
- 追加設備投資
- 株主還元

● Environment : 環境

■ 温室効果ガス (GHG) 排出量削減

2030年度

40%削減 (Scope1+2、2018年度比)

2050年度

カーボンニュートラルを目指す



2020年度 省エネ大賞 受賞
(理研ビタミン 草加工場)

【受賞区分】

省エネ事例部門 経済産業大臣賞
(CGO・企業等分野)

● Social : 社会

■ 女性管理職比率目標

21年度末 4.7% ⇒ 23年度末 **6%以上**



子育てサポート企業の証

「プラチナくるみん認定」
を取得 (2021年)

● Governance : ガバナンス

■ 政策保有株式の縮減目標

連結純資産比率

21年度末 29% ⇒ 24年度末 **20%未満**

■ 情報開示の充実と対話の強化

統合報告書の作成 (2023年度から)

1. 会社紹介
2. 当社の歴史
3. 事業紹介
4. 未来へのビジョン
5. 中期経営計画（2022-2024年度）

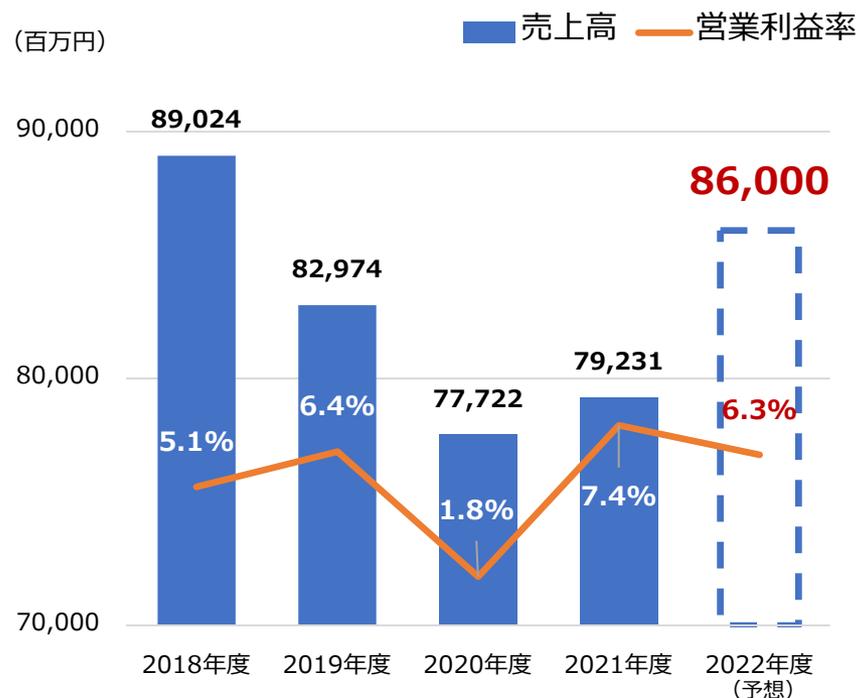
6. 財務状況・株主還元



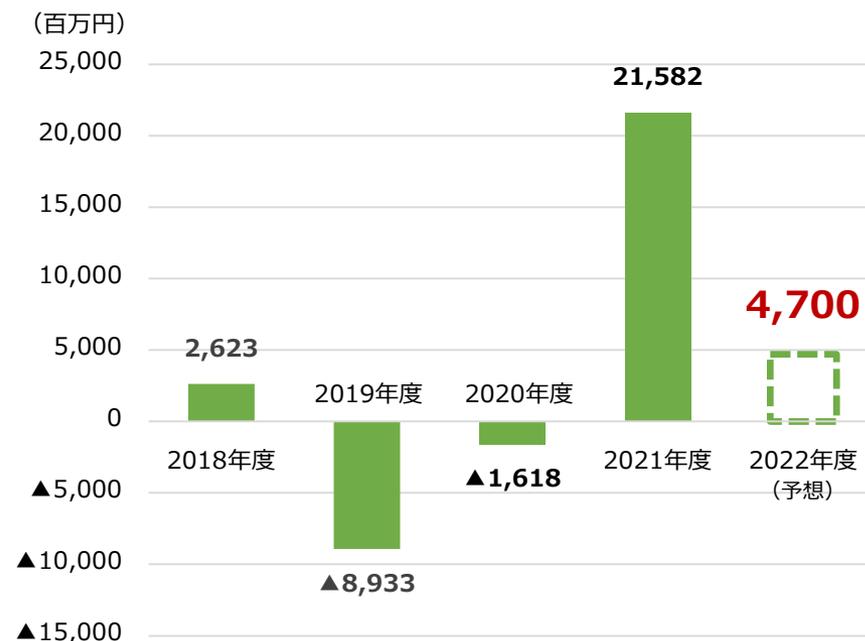
わかめちゃん

海外子会社関連の特別損失・特別利益により業績変動

■ 売上高・営業利益率



■ 親会社株主に帰属する当期純利益



- 2020年、**海外子会社において不適切な会計処理が発覚**
2018-2020年度にかけて一部取引の売上高を取り消し、多額の特別損失を計上
- 2021年6月に**当該子会社を売却**し、特別利益（関係会社出資金売却益）120億円を計上

コスト上昇により減益、前期は特殊要因あり

■ 2022年8月10日発表予想

単位：百万円

	2021年度	2022年度	前期比	
	通期	通期予想	増減額	増減率
売上高	79,231	86,000	+6,768	+8.5%
↳(連結除外事業を除く)	(78,832)		(+7,167)	(+9.1%)
営業利益	5,840	5,700	▲140	▲2.4%
↳(連結除外事業を除く)	(6,495)		(▲795)	(▲12.2%)
経常利益	6,182	6,100	▲82	▲1.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	21,582	4,700	▲16,882	▲78.2%
ROE	38.3%	6.9%		

- 原材料価格などの上昇を受け価格改定を推進。売上高は増加するも、コスト上昇分全額の転嫁は難しく、減益の予想
- 前期は海外子会社の売却により特別利益 (+12,076) を計上し、当期純利益が異常値

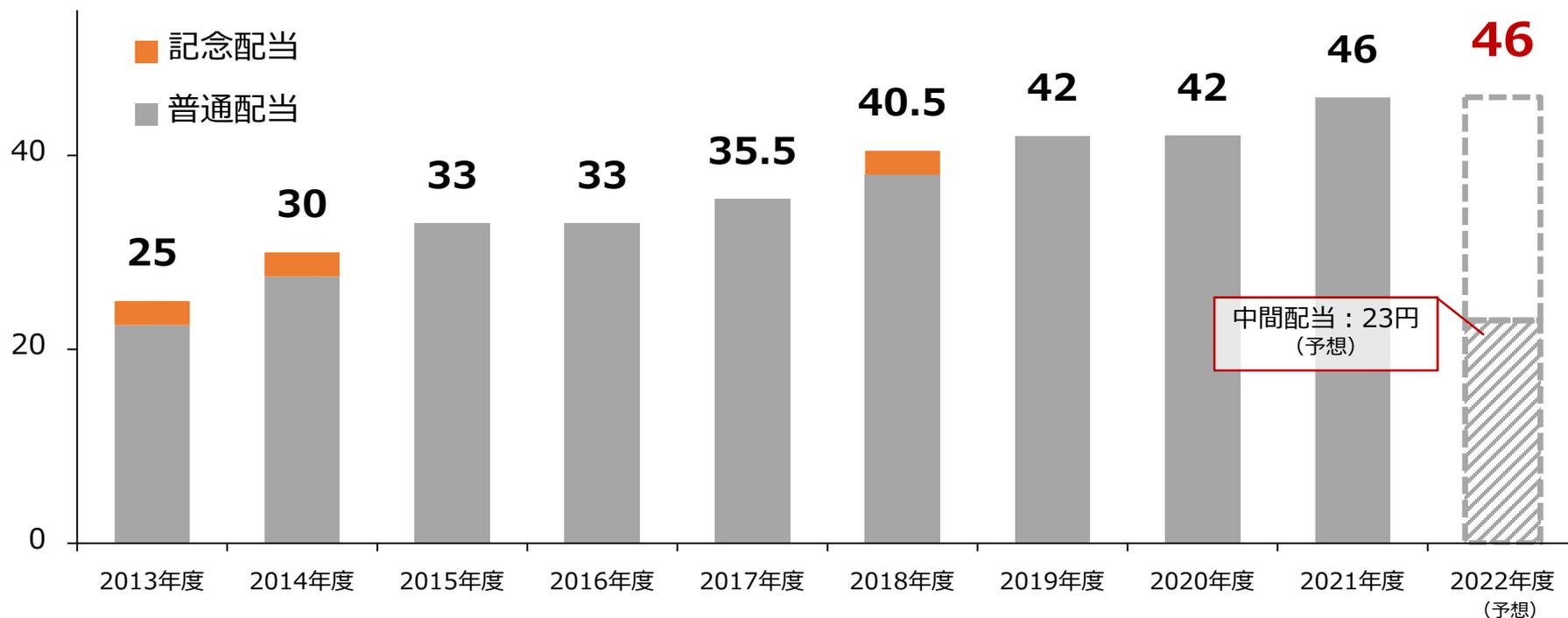
2022年度より配当方針を変更

<配当方針>

経営環境、業績、財務状況、株主還元性向、経営基盤強化のための内部留保等を総合的に勘案しながら、**連結配当性向30%以上**を目安に安定的な配当を継続して実施

■ 1株当たり年間配当金(円)

【基準日】 中間配当：9月30日
期末配当：3月31日



※当社は2020年4月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。
上記グラフ中の1株当たり年間配当金は、株式分割後の水準で記載しています。

保有株式数・保有期間に応じて自社商品を贈呈

■ 優待内容

- **年2回**、基準日時点の株主名簿に記載された100株以上保有の株主さまに自社商品を贈呈
- 保有株式数および保有期間に応じて株主優待品のランクがアップ

基準日	発送時期（予定）
3月31日	6月下旬
9月30日	11月下旬



2,000円相当の商品例（2022年6月発送）

■ 保有株式数・保有期間の基準

保有株式数	保有期間3年未満	保有期間3年以上※
100株以上、500株未満	1,000円相当	2,000円相当
500株以上、1,000株未満	2,000円相当	3,000円相当
1,000株以上、3,000株未満	3,000円相当	4,000円相当
3,000株以上	4,000円相当	5,000円相当

※毎年3月31日および9月30日の株主名簿に同一株主番号で7回以上連続して記載された株主さまが対象となります。

※保有期間中に証券口座の変更や貸株サービスを利用された場合は、株主番号が変更となる可能性があります。

より詳しい情報は当社ホームページで

当社ホームページ内、「**個人投資家の皆さまへ**」のコーナー※において
当社のことをより深くご理解いただけるコンテンツをご紹介します。

本日の説明会で当社にご興味をお持ちいただけましたら、ぜひそちらもご覧ください。

※当社ホームページ > IR情報 > 個人投資家の皆さまへ
➤ URL : <https://www.rikenvitamin.jp/ir/privateinvestor/>



ご清聴ありがとうございました。

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれます。

それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに当社が計画・予測したものです。

実際の業績などは今後の様々な条件・要素により、この計画などとは異なる場合があります、

この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

お問い合わせ先

経営企画部 広報・IR室 井上・大熊・清水

T E L : 03-5362-1315

補足資料



しゅびょう

“種苗”の研究を通じてわかめ産業の課題を解決

■ 理研食品・ゆりあげファクトリー（宮城県名取市）



- わかめの種苗の生産や海藻の基礎研究を行う施設
- 種苗育成を施設内で行い安定供給を実現
- 優良株の選抜や育成条件の最適化を通じて海藻養殖産業の安定化と支援を行う



わかめの種苗▶

■ わかめ産業が抱える課題を解決

気候変動

高生長株の選抜 ➡ **収穫量アップ**

人手不足

(高齢化・後継者不足)

早生株・晩生株の選抜で収穫時期を分散 ➡ **労働負荷低減**

震災復興

わかめ製品の前処理加工 ➡ **雇用創出・地域振興**

・・・海藻の基礎研究で海藻産業全体の発展へ



2021年 海藻の陸上養殖事業に進出



■ 理研食品・陸前高田ベース（岩手県陸前高田市）



- 海藻の種苗生産～養殖～乾燥加工を一貫して行う施設
- 「スジアオノリ※」から着手し、他の海藻も順次検討

※スジアオノリ

「青のり」として販売される海藻の中でも色や香りが良く高級品とされる。たこ焼きやお好み焼き、ポテトチップスなどの用途で需要が高い



■ 解決すべき課題の多くがわかめと共通

気候変動

国内主要産地※に比べ海水温が低い東北で養殖
わかめの研究で培った種苗選抜等のノウハウ

➡ 安定生産

人手不足

(高齢化・後継者不足)

敷地内の水槽で養殖が完結 ➡ 労働負荷低減

震災復興

陸前高田沿岸部の土地を活用 ➡ 地域振興

※国内主要産地：四国など、西日本地域

フードロス削減などに向けた研究開発も推進

■ アプリケーション&イノベーションセンター（A&Iセンター）

研究
開発

お客様

(加工食品メーカー)



営業



- 食品改良剤部門の研究開発拠点
- 各種加工食品メーカーと同等の試作設備
- 業界各社が抱える課題の解決を通じて社会貢献



▲海外拠点とも連携



▲試作風景



海外
+62億円

- 国内経営資源を最大限活用
- 設備投資：天津工場増築

サステナブルな成長ドライバーへ

国内食品
+68億円

- 既存領域に留まらない提案
- 設備投資：東京工場（ビタミン）

既存領域の深掘りと新領域への挑戦により成長する

国内化成品
+18億円

- 環境対応製品の拡大
- 化粧品・農業分野への展開

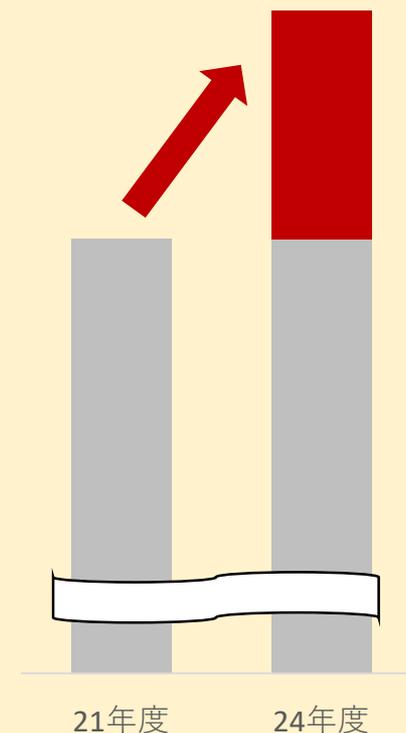
今後成長する環境配慮製品が得意分野

価格改定や不採算製品の見直しを強く進める

2024年度売上高
940億円

+151億円

※連結除外事業を除く



為替前提：1\$ = 116円

※上記の各事業の数値には、セグメント間の内部売上高を含めています。売上目標は調整前の数値です。

● Environment：環境

■ 温室効果ガス（GHG）排出量削減

2030年度

40%削減（Scope1+2、2018年度比）

2050年度

カーボンニュートラルを目指す

■ 気候変動への取り組み

- ・ 2022年4月、TCFD提言に賛同
- ・ 気候変動に関するリスクと機会を分析
結果は最新のCSRレポートで公表
➢ <https://www.rikenvitamin.jp/csr/library/report/>



■ 環境負荷低減目標

- ・ 全商品バイオマスインキ使用
- ・ 賞味期限の年月表示化（賞味期間1年以上の商品）
- ・ ドレッシングボトルのリサイクルペット化



2020年度 省エネ大賞 受賞
（理研ビタミン 草加工場）

【受賞区分】

省エネ事例部門 経済産業大臣賞
（CGO・企業等分野）

TCFD | TASK FORCE ON
CLIMATE-RELATED
FINANCIAL
DISCLOSURES

TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）

G20の要請を受け、金融安定理事会（FSB）が2015年に設立。
気候変動への取り組みに関する情報開示を推奨している。



家庭用ドレッシングの
シュリンクラベルに
バイオマスインキを採用
（2022年）

● Social：社会

■ ダイバーシティ & インクルージョンの推進

- ・ 多様な人材の採用と育成
- ・ 女性管理職比率目標

21年度末 4.7% ⇒ 23年度末 **6%以上**

■ 変化に対応可能な自律型人材の育成

- ・ リスキングの推進と人事制度の見直し
- ・ グローバル人材比率目標

21年度末 5.3% ⇒ 30年度末 **10%以上**

■ 健康経営の推進

- ・ “多様な人材が働きやすく×働きがいのある職場醸成”を目指す

■ 食育活動の充実

- ・ 「わかめ学習出前授業」の実施



子育てサポート企業の証

「プラチナくるみん認定」
を取得（2021年）



従業員の健康保持・増進

「健康経営優良法人2022」
に認定（2022年）



◀わかめ学習出前授業の様子

● Governance : ガバナンス

■ コーポレート・ガバナンスの実効性強化

- 外部機関による取締役会の実効性評価の実施
- 政策保有株式の縮減目標（連結純資産比率）
21年度末 29% ⇒ 24年度末 **20%**未満

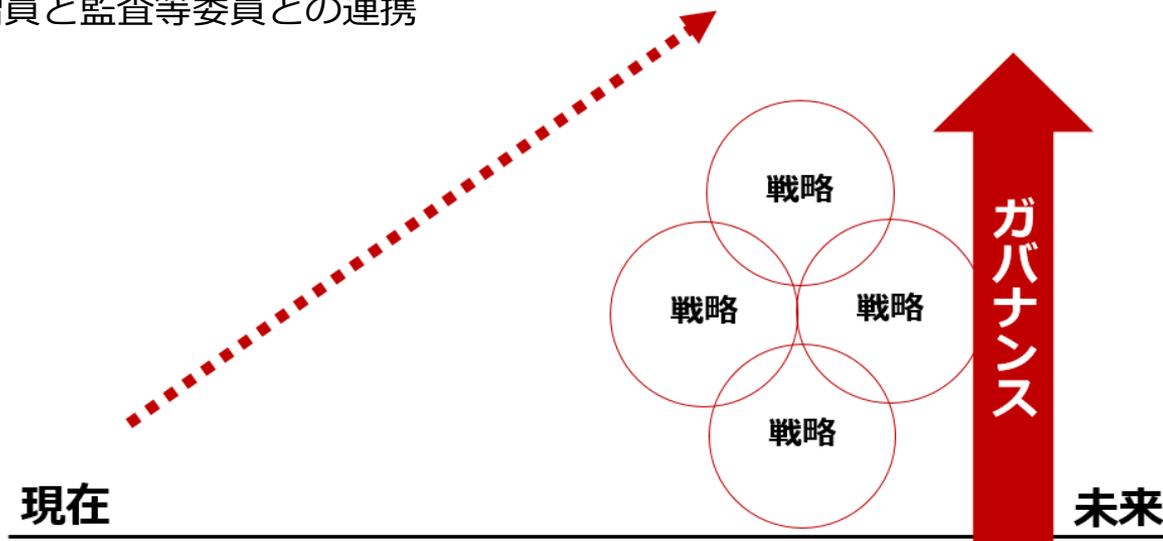
■ グループ・ガバナンス体制の強化

- 本社での管理集約化による効率化と管理強化
- 監査部門の増員と監査等委員との連携

■ 情報開示の充実と対話の強化

- 事業内容や非財務情報の開示の充実
英文開示の拡大
- 機関投資家／個人投資家との対話の強化
- 統合報告書の作成（2023年度から）

ビジョンの実現



第1四半期までの業績は堅調

■ 2022年8月10日発表

単位：百万円

	2021年度	2022年度	前年同期比	
	第1四半期	第1四半期	増減額	増減率
売上高	19,500	21,569	+2,068	+10.6%
↳(連結除外事業を除く)	(19,100)		(+2,468)	(+12.9%)
営業利益	1,009	2,023	+1,013	+100.4%
↳(連結除外事業を除く)	(1,664)		(+358)	(+21.6%)
経常利益	1,074	2,436	+1,361	+126.7
親会社株主に帰属する 四半期純利益	15,668	1,833	▲13,834	▲88.3%

- ▶ 原材料価格などの上昇を受け価格改定を進めた結果、売上高は2桁伸長
- ▶ 利益面は前年同期に実施した海外子会社の売却の影響を大きく受ける
 - ↳当該子会社の営業損失（▲654）の剥落 ⇒ 営業利益・経常利益が大幅増
 - 特別利益（関係会社出資金売却益+12,076）の剥落 ⇒ 四半期純利益が大幅減

子会社の会計処理をめぐる問題で大きく変動

■ 一日終値

